令和３年度 第１回 横浜市美術資料収集審査委員会 会議録

１ 日　時　令和３年11月25日（木）午後１時35分 ～ 午後３時35分
２ 場　所　山九平和島ロジスティクスセンター
３ 出席者　岡部 あおみ 委員、勝山 滋 委員、加藤 弘子 委員、関次 和子 委員、建畠 哲 委員
４ 欠席者　中林 和雄　委員
５ 傍聴者　なし
６ 議事内容

議題	令和３年度収集候補作品の審査
決定事項 議事	１　委員長の選出 　横浜市美術資料収集審査委員会運営要綱第５条１項に基づき、委員の互選により、建畠委員を委員長に選出した。 ２　定足数の確認 　委員数６名のうち５名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 ３　本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 　横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき、作品説明と質疑については公開とし、審査報告書作成については非公開とした。 ４　収集候補作品の審査 　収集候補作品388点（寄贈231点、寄託157点）について、横浜美術館指定管理者が概要を説明した後、検分審査を行った。 　審議の結果、全会一致で上記388点について、収集が妥当との結論が出た。 　議事については以下のとおり。 ５　議題：令和３年度収集候補作品の審査 ※作品の収集形態及び作品番号については、【収集形態―番号】の形で示す。 【寄贈１～３】荘司　福『ふたり』ほか計３点 【寄贈４～38】羽石 光志『月刊誌『歴史と人物』表紙絵原画』計35点 （建畠委員） ・画材は何か。 （横浜美術館） ・顔彩を使用している。 （建畠委員） ・１点欠けている作品は、オファー者は持っていないのか。 （横浜美術館） ・オファー者の下にはないが、雑誌も一緒に寄贈を受けており、雑誌の表紙から情報を補える。雑誌は美術情報センターに収蔵する予定。 （岡部委員）

・複数回描かれているのは聖徳太子だけか。
（横浜美術館）
・聖徳太子のみ２度描いている。

【寄贈39～42】山本 直彰『立てる像（Ⅱ）』ほか計４点
（岡部委員）
・70年代の作品が興味深い。初期にはこうした作品を描いていたのか。
（建畠委員）
・師の片岡球子の影響が感じられる。
（横浜美術館）
・山本はデビューしてから10年間ほどは人物画を描いていた。同氏の作品の主だったものは文化庁、平塚市美術館などに収蔵されているが、今回はこれまで手放さずに作家の手元で愛蔵していた代表作を寄贈いただいており、その点は貴重である。

【寄贈43～49、69】髙田 保雄『接収家屋（山手）』ほか計８点
（岡部委員）
・これまで同氏の作品の収集歴は。70年代の作品が中心だが、その後の制作状況は。
（横浜美術館）
・今回が初めての収蔵となる。作品制作は継続していたが、今回は『横浜シリーズ』から作品を選出しているため時期が固まっている。

【寄贈50～51】兵藤 和男『古樹新緑』ほか計２点

【寄贈52～53】平岡 権八郎『題名不詳』ほか計２点

【寄贈54～56】山本 貞『午後』他３点
（建畠委員）
・題材は横浜の公園か。
（横浜美術館）
・横浜の三ツ池公園と大倉山公園である。

【寄贈57】恩地 孝四郎『岩間』

【寄贈58～64、67～68】加山 三郎『自画像』ほか計９点
（建畠委員）
・058と059は、版は同じようだが、白と黒を逆転させた刷りを試みているのは珍しい。
（岡部委員）
・060と061の顔が違うのは、手彩色のためとみられる。デザイン性を意識した色使いなのだろう。

【寄贈65】若山 八十氏『海の花束』

【寄贈66】吉田 博『ヴィクトリヤ メモリヤル』

【寄贈70～88】長谷川 潔『《マノスク風景》の下図』ほか計19点
（建畠委員）
・収蔵作品と対応している下図もあるのか。
（岡部委員）
・下図の方が大きいようだが。
（横浜美術館）
・すべて収蔵されている版画作品に関連する下図や画稿である。実際の版画よりも大きなサイズでスケッチをしていたことが見て取れる。

【寄贈89】三宅 克己『水郷夏景』

【寄贈90～93】土谷 武『門Ⅳ-b』ほか計４点
（岡部委員）
・異なる種類の作品が並び興味深い。『開放Ⅰ（エスキース２）』は写真とかたちが異なるが、何故か。修復すべきでは。
（横浜美術館）
・保存状態が悪かったためで、今後、修復を検討していきたい。

【寄贈94～97】井上良斎（三代）『白磁千條文片耳花瓶』ほか計４点

【寄贈98～102】石川 真生『沖縄ソウル―フィリピン人ダンサーより』ほか計５点

【寄贈103～230】奈良原 一高『無国籍地』ほか計128点
（関次委員）
・奈良原作品の既収作は8点とのことだが、何のシリーズか。
（横浜美術館）
・うち7点は、ポートフォリオ「空気遠近法」所収のもの。もう1点は大判のポラロイド写真である。
（関次委員）
・これは良いコレクションだと思う。カラー写真は含まれているか。
（横浜美術館）
・当館ではカラーのポラロイド作品１点を収蔵しているが、今回は、当館において初めての本格的な奈良原作品の収集であるため、氏の創作の中心をなすモノクロームのシリーズを念頭に所蔵者と交渉した。

【寄贈231】岡 鹿之助『加山四郎宛絵葉書』

【寄託】
（建畠委員）
・田邊コレクションの説明を。
（横浜美術館）
・市内在住のコレクターである田邊哲人氏が収集した陶芸を中心とした作品群。横浜美術

	館では 2017 年に５点、2018 年に１点を受託している。 （建畠委員） ・登り窯は現存していないのか。 （横浜美術館） ・保存はされているが、窯としては使用されていない。 【その他】 （加藤委員） ・資料収集方針と照らし合わせながら見ていたが、横浜ゆかりの作品は充実しているのに対して、全般をどのようにフォローしているのか。 （横浜美術館） ・収集方針は30年前に定められたままであり、アップデートが必要なものと考えている。寄贈に頼ると20世紀の横浜に偏ってしまう。２（4）などは、デザイン、工芸、建築などは、現有の学芸員の専門性をふまえて再検討する必要がある。 （加藤委員） ・若い作家の支援、育成の視点は。 （横浜美術館） ・作家を育てる意味で若手作家の展覧会（ＮＡＰ）を年１回開催しているほか、ヨコハマトリエンナーレも行っている。しかし、展示するのみで残念ながら収集に結び付いていない。 （加藤委員） ・収集予算があることが重要。予算がなくて買えなかったことが10年後、20年後に問題になる。その後では作品の価額が高騰して買えなくなる。 （岡部委員） ・収集予算のめどは。 （楢﨑課長） ・基金残高は厳しい状況で、市予算からの積み立ても難しい状況。市・美術館が一体となって寄附のスキームを考えており、何とか基金を積み立てていきたいと考えている。 （岡部委員） ・基金だけではなく、若手育成の予算から収集につなげることはできないか。価額が高騰する前に、早めに購入したほうが良い。 （勝山委員） ・寄贈により受け身でコレクションを形成するには限界がある。年100万円でもいいので予算を付けて、作品を買ってもらいたい。良い作品を持っているオファー者は、作品を買うお金が無いところにはこない。 （岡部委員） ・クラウドファンディングなどで集めることもできないのか。 （勝山委員） ・クラウドファンディングならサイトを通じて宣伝にもなる。 （蔵屋館長） ・作品を購入してこそ寄贈の話がくるのが普通である。市とともにクラウドファンディングなどを検討していきたいが一時的なものなので、継続的な取組をしていきたい。 （加藤委員）

	・アフターコロナを含めて考えたときに、美術作品の購入予算は学芸視点のアピールポイントだけでは難しいので、観光など２次３次効果も考えて収集することも必要。 （建畠委員） ・半分近くの美術館は購入予算が無く、10数年ものあいだ作品を購入していないというところもある。時代が抜けてしまうのはコレクションとして問題がある。 議事は以上